

「まがに」の名称にふさわしく，最も味が良いのがこのカニなのです．1ページの写真個体は甲幅が144mmでしたが，こんなのはまだまだ序の口です．甲幅20cmを超えるのもいます．体重が2kgを超えるクラスになると，そのハサミに恐怖心すら覚えます．もちろん，危険です．これに挟まれるとあまりの痛さに失神し，怪我の回復に半年はかかるそうです．

彼らはこの巨大なハサミでアサリを割り，牡蛎を割っては餌としています．すなわち，ばく大な量のアサリやカキ類なくして彼らの生活は成り立たないのです．



2004年8月18日続島周辺で採集された個体．

左の個体は甲幅45mm程度のまだ若い雄です．浦戸湾ではトゲノコギリガザミの稚ガニの放流が行われていますが，時期から考えて，左の個体は明らかに放流個体ではありません．この日は，直径30cmほどの手網で泥

の中を探ただけで3個体も採れました．驚いたのは，竹島川にもかなり大型のトゲノコギリガザミが居ることです．

九州以北のノコギリガザミ類の産地としては浜名湖が有名ですが，浦戸湾のトゲノコギリガザミはこれを凌ぐブランド品で，本種の種苗生産を一手に支えている存在なのです．

2005年5月18日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，  
四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します．複製ならびに内容についての問い合わせはFAX 088-844-8310（町田研究室直通）でお願いします．